

No.10 「滑稽を語る・・・俳句・雑俳・川柳」

池田無了

2009年8月15日

俳句はフォーマルなスーツ。

ネクタイという季語をきちんとつけ、上着、チョッキ、ズボンの五七五の定型、けり、かなの切れ字の折り目正しき言葉遣い。

川柳はカジュアルスーツとでもいうか、アロハ、Ｔシャツ、ミニパンツ、サンダル穿き、場所柄もおかまいなく、ぞんざいな言葉遣い。

もちろんその形から人格をとやかくはいえないと思いますが。

そういえばNHKの俳句会の出席者のほとんどが目いっぱい
の正装できめこんで礼儀正しく作句し批評しあっています。

滑稽俳句とは何であるか。

小生思うにこれもやはりフォーマルであり最低限ネクタイ
くらい締めろよ、とはいっても、形の上でのことであって
よそ行きの意識ではない、着崩れた普段着の姿か。

たとえばチャップリンのステッキとタキシード姿のごとき、遊び心あるスタイル。

「ひとつ家に遊女も寝たり旅の宿」を「ひとつ家に遊女と寝たり旅の宿」としたら前者は正統、後者は邪統となるか。あまり着くずすのもよくないようです。

日本名著全集では川柳・雑俳という区分になっていますが、雑俳とはなにか、西原柳雨は「長松が親の名でくる御慶哉」は俳句で「長松が親の名で来て申し入れ」なら川柳になるといいますが、そこまでの専門領域にいたってはボキャ貧の小生にはわかりません。

言い古されたことでしょうが・・・。

万歳の形でホルドアップ敗戦忌